

*プラン子午儀を子午儀資料館に移設

ハワイ観測所から役目を終えたすばるの第一期観測装置のCIAOが帰ってくるため、天文機器資料館に展示スペースを作る作業をいくつか進めた。行った作業を順にあげると、1) 天文機器資料館の展示が十分な保全設備がない間、入り口近くにガラス室を設けて見学室としていた(写真1)。そのガラスの仕切りを取外した。2) そしてその一部を使ってゴーチェ子午環室のガラス見学室の改良を行った。これは子午儀資料館に展示してあったゴーチェ子午環用の水銀盤をゴーチェ子午環室に搬入するルートを作るためであった。3) 子午儀資料館に展示してあったゴーチェ子午環用水銀盤をゴーチェ子午環室に移設した(アーカイブ新聞784号参照)。4) 天文機器資料館に展示してあったプランの子午儀を本来展示すべき子午儀資料館への移設。5) 天文機器資料館に展示してある分光光度計の移動。6) 天文機器資料館に展示してある188cm望遠鏡赤経駆動装置の移動の6回の展示物移動



写真1 見学用のガラス室の敷設工事

でCIAO展示のスペースを確保した。見学用ガラス室を取り払ったのでかなり大きなスペースができたが、4)のプランの子午儀の移設に加えて5)、6)の移動することによっても必要であった。

今回は4)のプランの子午儀を子午儀資料館に移設した報告である。プランの子午儀は子午儀資料館に展示するのが本来であったが、プランの子午儀はレプソルド子午儀に

次いで大きく、子午儀資料館が手狭だったため今まで天文機器資料館に展示していた。

このプランの子午儀を天文機器資料館に運び込む作業は天文台野球部の若者の力を借りて搬入した。今回は天文情報センターの4人で移設することにした。天文機器資料館ではプランの子午儀は背の高い大きなアクリルカバーをかぶせてあったので、そのアクリルカバーを取り外す作業の大きな作業であった。子午儀は、望遠鏡本体は高度軸架台に載っているだけなので、まず望遠鏡を架台から降ろし、次に架台を4人がかりで階段を使って天文機器資料館の外に出し、続いて架台を外に出し、次に展示台に使っていたキャスター付きの作業台を外に出し、このキャスター付き作業台に架台、望遠鏡を載せて子午儀資料館

まで運んだ。子午儀資料館ではレプソルド子午儀本体の北側に 90 mmバンベルヒ子午儀が東西に 2 台並べてある西側にプランの子午儀を展示した（写真 2）。



写真 2 子午儀資料館に展示されたプランの子午儀

これで、国立天文台に残る子午儀は三鷹市の「星と森と絵本の家」へ貸出してある 50 mmバンベルヒ子午儀を除いて勢ぞろいした。子午儀資料館に展示されているのは、1) 135 mmレプソルド子午儀（重要文化財）、2) 90 mmバンベルヒ子午儀 2 台、3) プランの子午儀、4) 70 mmバンベルヒ子午儀、5) イギリス製トロートン・シムス子午儀、6) プランの子午儀に鏡筒部、7) リーフラー時計の 8 点である。6) は別のプランの子午儀の一部であり、架台部、接眼部などは行方が知れない。これで子午儀資料館は文字通り子午儀資料館になった。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp